

早期景気観測調査

(10-11月期)

—結果概要報告書—

平成23年12月



甲府商工会議所

◆調査要領

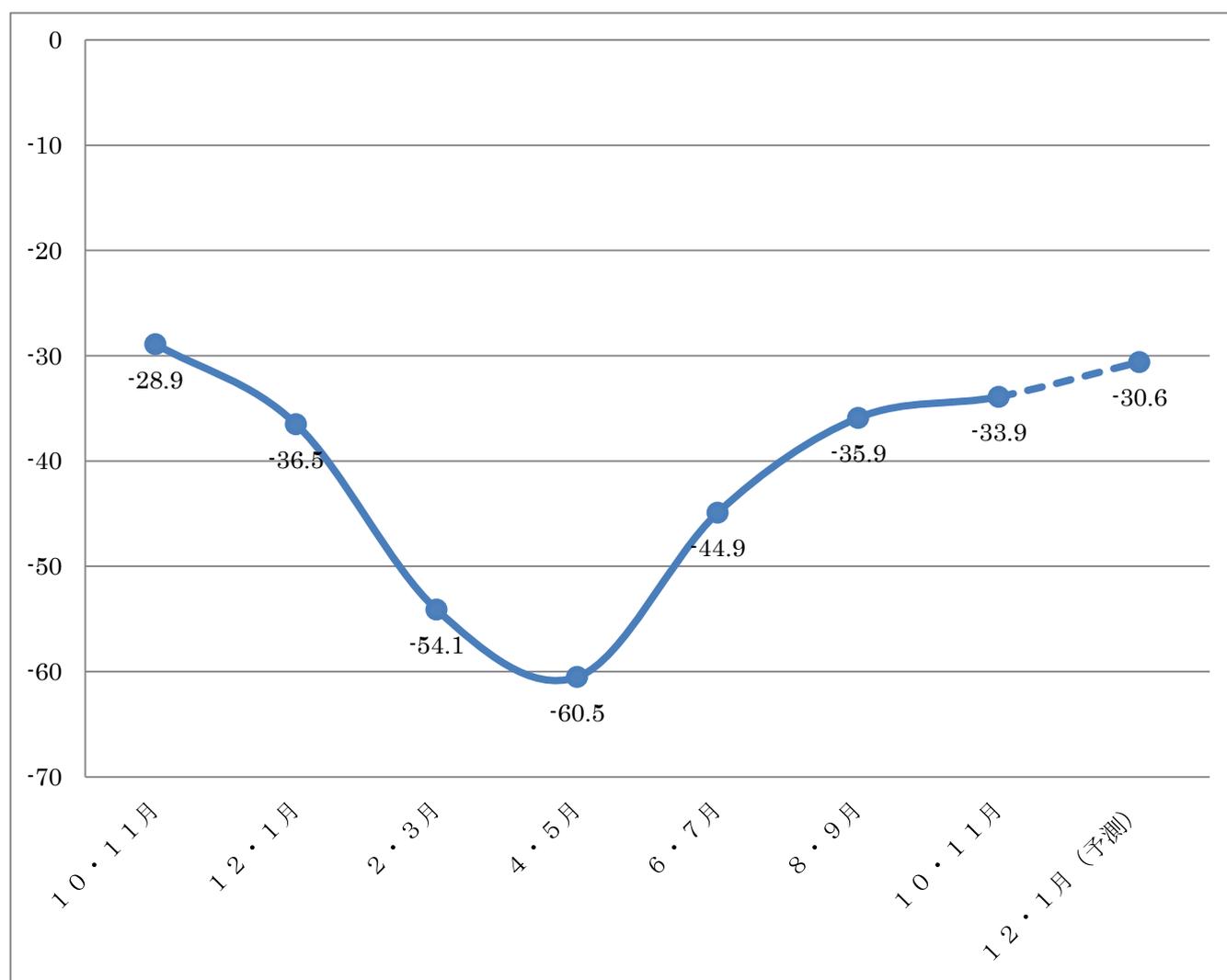
1. 調査の目的：山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として
中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関：甲府商工会議所
3. 調査実施時期：平成23年11月15日(火)～30日(水)
4. 調査対象：当所会員 154事業所
5. 調査方法：郵送によるアンケート方式
6. 回収数：124
7. 回収率：80.5%
8. 特記事項：原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【10-11月のポイント】

- 回復力に減速感がみられるものの、今後も緩やかに回復に向かう見通し
- 建設業は改善傾向に
- 製造業の業況が悪化、小売業は今後も厳しい業況が続く見通し

【業況D I の推移】



◆全業種・業種別詳細

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
好転	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※ D I 値 (景況判断指数) について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆全業種総合

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 33.9	▲ 30.6	▲ 32.3	▲ 35.5	▲ 36.3	0.0	▲ 4.0

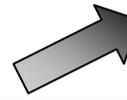
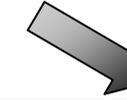
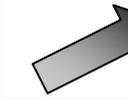
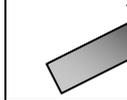
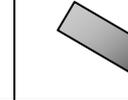
10-11月期の全産業の業況D Iは、**▲33.9** (前期比+2.0ポイント) となり、小幅な改善にとどまった。売上・採算D Iはやや悪化したものの、仕入単価・従業員・金融貸出D Iは改善している。

先行きに関しては、製造業・卸売業が牽引する形で、緩やかな回復基調を辿るものと思われる。

しかしながら、製造業・宝飾、建設業・土木、小売業・趣味、小売業・家電、およびサービス業・観光は依然として厳しい業況が続く見通しである。

◆ 業種別

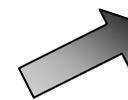
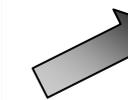
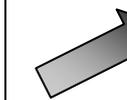
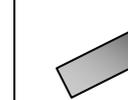
製造業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 4 1. 7	▲ 2 7. 8	▲ 4 1. 7	▲ 3 6. 1	▲ 3 6. 1	▲ 5. 6	▲ 8. 3

業況D Iは改善傾向から一転して大幅な悪化となった。売上・採算D Iともに大幅に悪化しており、金融貸出D Iも悪化している。一方で、仕入単価・従業員D Iは改善した。

業況D Iに関する今後の見通しについては、大幅な改善が予想され、前期（8－9月期）の水準まで回復する見込みである。したがって、今期の業況悪化は一過性のものと考えられる。

建設業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 1 7. 4	▲ 3 0. 4	0. 0	▲ 3 9. 1	▲ 3 0. 4	8. 7	0. 0

業況D Iは大幅な改善となり、震災前の水準に回復した。売上・採算・仕入単価D Iともに大幅に改善しており、従業員・金融貸出D Iも改善した。

業況D Iに関する今後の見通しについては、大幅な悪化が予想されるものの、前期（8－9月期）の水準は上回る見込みである。

卸売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 3 5 . 3	▲ 1 7 . 6	▲ 5 2 . 9	▲ 4 7 . 1	▲ 5 8 . 8	5 . 9	5 . 9

業況D Iは大幅な改善となり、震災前の水準に回復した。売上・採算・仕入単価D Iは悪化したものの、従業員・金融貸出D Iともに改善した。

業況D Iに関する今後の見通しについては、引き続き改善傾向が予想される。

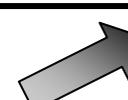
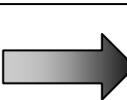
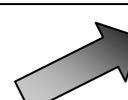
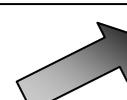
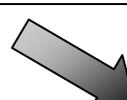
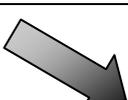
小売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 4 0 . 6	▲ 4 3 . 8	▲ 5 6 . 3	▲ 3 7 . 5	▲ 1 5 . 6	3 . 1	3 . 1

業況D Iは改善傾向から一転して悪化となった。採算・仕入単価・従業員・金融貸出D Iは改善しているものの、売上D Iが大幅に悪化した。

業況D Iに関する今後の見通しについては、小幅な悪化が予想され、業況の悪化が常態化しつつある。

サービス業

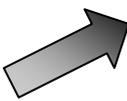
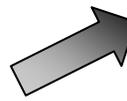
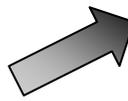
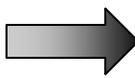
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 2 5 . 0	▲ 2 5 . 0	1 2 . 5	▲ 1 2 . 5	▲ 6 2 . 5	▲ 1 2 . 5	▲ 2 5 . 0

業況D Iは小幅に改善した。仕入単価・従業員・金融貸出D Iは悪化したものの、売上・採算D Iは改善している。

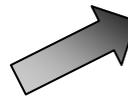
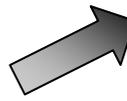
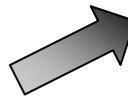
業況D Iに関する今後の見通しについては、不変を予想している。

◆ 業種別詳細

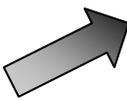
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

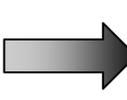
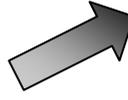
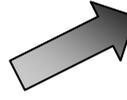
製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

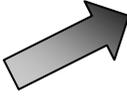
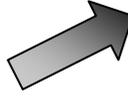
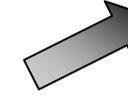
製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

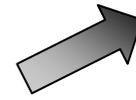
製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

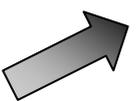
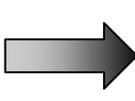
製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

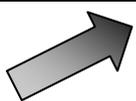
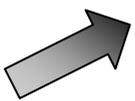
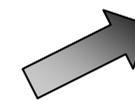
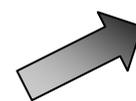
建設業（建築）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

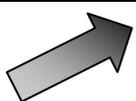
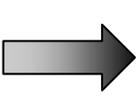
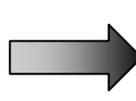
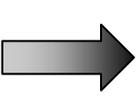
建設業（土木）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

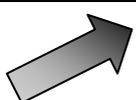
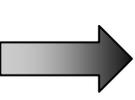
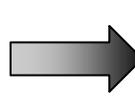
建設業（鉄鋼）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

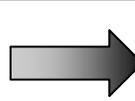
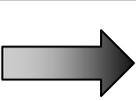
卸売業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

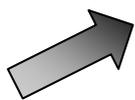
卸売業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

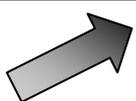
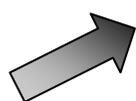
卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

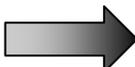
小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

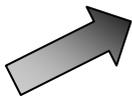
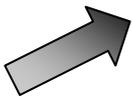
小売業（趣味）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

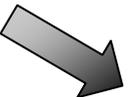
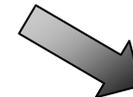
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

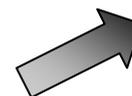
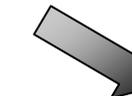
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声

製造業（食品）

- ・世界恐慌に近い経済不安が欧州を中心に渦巻いていて、為替がなかなか安定しない。このために、原材料価格が定まらず、計画的な利益が見込めない状況。

製造業（家具）

- ・諸外国の財政危機、為替の不安定、福島原発による風評被害、TPPや消費税値上げなど政府の恫喝とも思える政治手法。どれをとっても、この不透明な時代に今後の景況予測は不可である。

製造業（工業製品）

- ・「円高」や「納入先大手の国外での生産シフト化」により厳しい状況下であり、対応に苦慮している。

製造業（宝飾）

- ・社員一人ひとりの人格形成を育む能力の向上が課題だと考える。

製造業（繊維）

小売業（大型店）

- ・天候不順等により、衣料品の売上が10月中旬以降低調である。11月後半より上向き傾向であり、12月の状況によっては全体が上向くと思われる。しかし、お客様の購買意欲は低調なため、厳しい12月になる可能性が大きい。

小売業（食料品）

小売業（事務用品）

- ・東日本大震災が一段落したが、タイの洪水で再び部品不足が発生し、順調な販売ができない。

小売業（趣味）

- ・グランバザールも出足は良かったが、合計ではやや実績を下回った。
- ・ドラッグストア業界にとっては、現在厳しい状況が続いている（長雨、台風、個人消費減、競合激化等）。冬場は、気候次第で採算が変化してくる（インフルエンザ、風邪等の流行）。いま一つ今年は分からない。

小売業（家電）

- ・テレビはエコポイント対象の時間が終了した時点で、ほとんど売上がない。先に売っていたのだから仕方のないことだと思うが、買換え・修理等もない。

サービス業（ホテル）

- ・前年より人数は増えているものの、大手の業者が朝食付きで安くしているので、それに伴って値下げして営業しているところが多く、採算はなかなか厳しいと嘆いている。土曜日は、観光のお客様の予約が例年より増えている。

サービス業（観光）

- ・震災の影響から回復したものの、景気低迷等により売上は頭打ち。燃料の価格上昇により、採算面でも厳しい状況が続く。

サービス業（飲食）

- ・「うなぎ」の仕入単価が前年より5割以上高く、値上げを余儀なくされた分、顧客のイメージもややダウンしている。また、利益率もまだまだ通常のレベルまでには至らず大変。
- ・お客様の来店が少なく、1人当たりの飲食単価も低くなっているため、売上が20%は減少している。
- ・前年との比較は依然として悪いが、12月・1月は忘新年会の時期なので、いくらかは期待している。食料品の原材料費が軒並み上昇しているが、価格に転嫁できにくい状況である。

建設業（鉄鋼）

- ・見積物件が少なく、工事単価も非常に厳しくなっている。
- ・低入札が続いているため、競争は厳しい。また、受注しても採算が難しい。

